

第 1 章

子どもとのかかわり

桜井 茂男



第1節

日ごろのかかわり

1 子どもとのかかわり

母親は子どもに積極的にかかわり、自分も子どもとともに成長しているという肯定的感情を強くもつ反面、子育てに伴うイライラ感をもったり、子どもを叱る、たたくといった否定的なかわりもする。子どもにどうかかわるかは、夫の影響が大きい。

◆◆子育てにはおおむね肯定的!?

母親は子どもとの生活のなかで、どんなことを行い、どんなことを感じているのだろうか。図1-1にはそうした質問項目に対する母親の回答結果が示されている。

まず、肯定的な行動や感情についてみてみよう。「園の参観日や運動会などの行事に参加する」「子どもと一緒に買い物に出かける」などのかかわり行動では、「よくある」と回答した母親だけでも約70%から90%に達しており、こうしたかかわり行動が良好であることがわかる。肯定的な感情についても「子どもが成長したと感じる」「子どもが思いやりのある言葉や態度を示してくれたと感じる」という項目に対し、60%から80%の母親が「よくある」と回答しており、子どもの成長を実感していることがうかがえる。さらに「子どもをもつことによって自分自身が成長したと感じる」という自分の成長に関する肯定的な感情でも「よくある」に「時々ある」を含めると90%近くの母親がこれに同意している。

一方、子どもに対する否定的な行動や感情も少なくはない。「子どもを感情的に叱ってしまう」「子どもの態度にイライラする」「子どもの様子を見てみると、つい不安になることがある」「子どもを思わずたたいてしまう」

という項目に対し、約50%から80%の母親が「よくある」または「時々ある」と回答している。子どもに対する肯定的な行動や感情と同時に、否定的な行動や感情も存在することを忘れてはいけない。

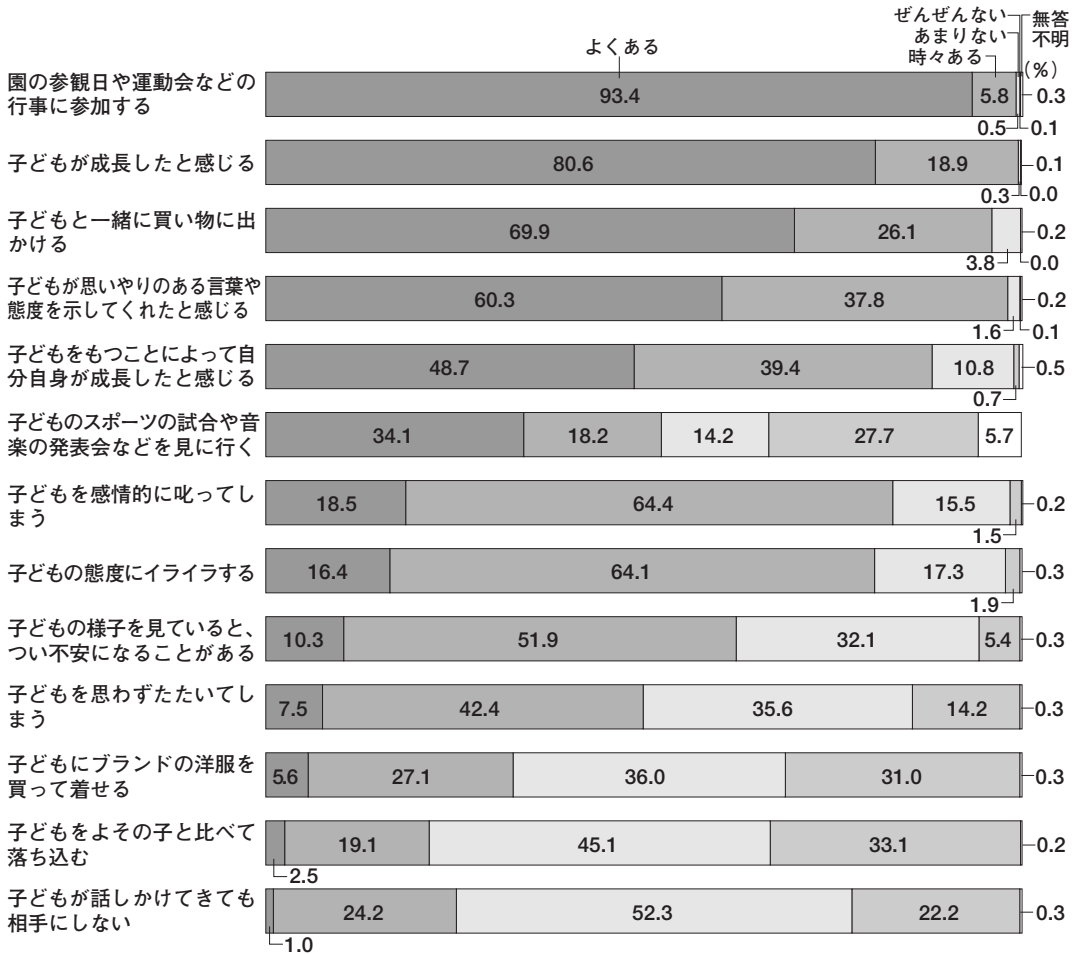
◆◆年長児、第1子への子育ては要注意

図1-2には、子育てにおける否定的な行動や感情について、学年別ならびに出生順位別に検討した結果が示されている。

まず学年別の分析をみると、「子どもの様子を見てみると、つい不安になることがある」「子どもが話しかけてきても相手にしない」「子どもをよその子と比べて落ち込む」という項目には、学年が上がるとともに同意する割合が顕著に増加する傾向が認められる。すなわち、年長児の母親ほど、こうした否定的な行動や感情を経験することが多いということである。

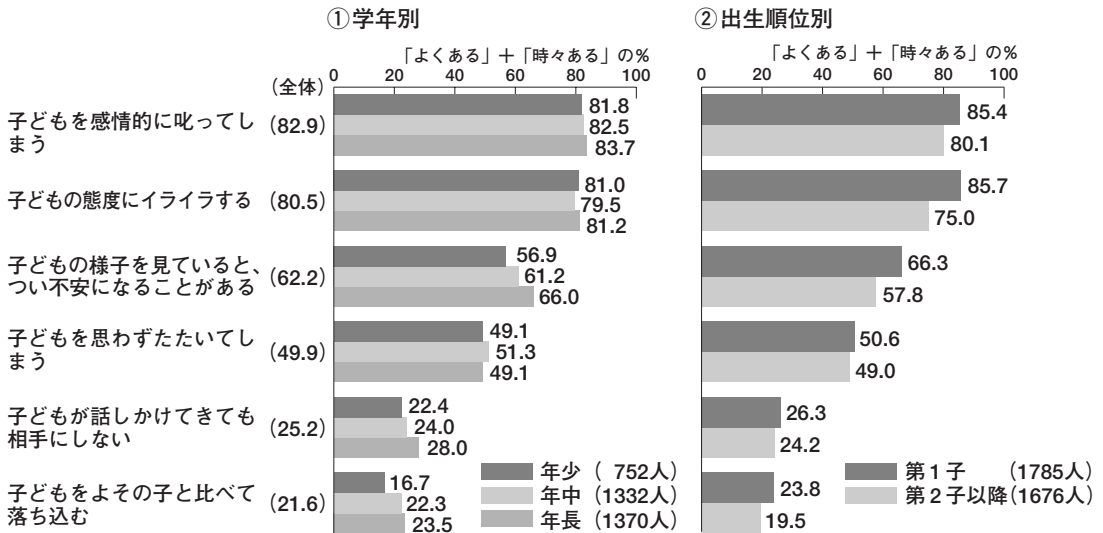
次に出生順位別の分析をみると、「子どもの態度にイライラする」「子どもの様子を見てみると、つい不安になることがある」という項目に顕著な差が認められる。第1子に対してはこのような否定的な感情を抱きやすいことがわかる。母親にとって第1子の子育ては、わからないことづくめであり、周囲の人のサポートが必要であるといえよう。

■図1-1 日ごろの生活であること



注) サンプル数は3477人。

■図1-2 日ごろの生活であること (学年別、出生順位別)



◆◆常勤者は子どもを肯定的にみる

図1-3では、図1-1のデータを母親の就労状況別に分析してみた。

「子どもが成長したと感じる」「園の参観日や運動会などの行事に参加する」「子どもが思いやりのある言葉や態度を示してくれたと感じる」「子どもと一緒に買い物に出かける」「子どもをもつことによって自分自身が成長したと感じる」「子どものスポーツの試合や音楽の発表会などを見に行く」といった子育てに関する肯定的な行動や感情には、就労状況による差異はほぼみられない。

ところが、「子どもを感情的に叱ってしまう」「子どもの態度にイライラする」「子どもの様子を見ていて、つい不安になることがある」「子どもを思わずたたいてしまう」「子どもが話しかけてきても相手にしない」「子どもをよその子と比べて落ち込む」といった否定的な行動や感情には、程度の違いはあるものの、母親の就労状況による差異が認められた。

とくに、専業主婦と常勤者の間の差異が大きく、パートはおおむね両者の中間に位置している。専業主婦と常勤者の差異が大きい項目は「子どもをよその子と比べて落ち込む」11.6ポイント、「子どもの様子を見ていて、つい不安になることがある」9.3ポイント、「子どもを思わずたたいてしまう」8.6ポイン

トであり、これらは専業主婦である母親のほうが常勤者である母親よりも、子育てで不安になったり落ち込んだり、子どもをたたいてしまうことが多いことを意味している。子どもと一緒にいすぎること、否定的な感情や行動の原因になりそうである。

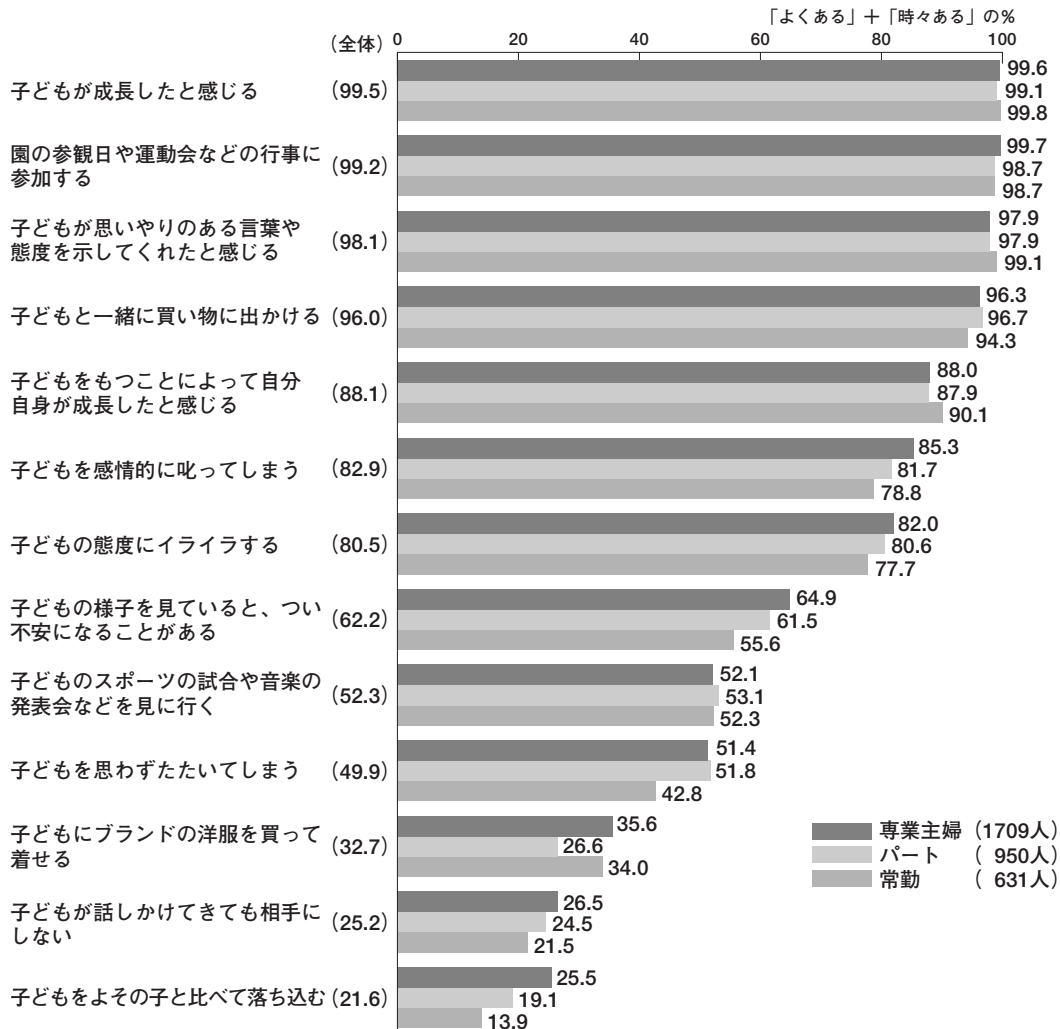
◆◆子育てには夫の理解が必要

子育てに関する否定的な行動や感情についてたずねた6項目について、のちの質問項目[8]2)「あなたの配偶者は、あなたに関心をもっていることや悩みなど『現在のあなたご自身』を理解してくれていると思いますか」という項目とクロスさせて分析を行った。結果は図1-4に示されている。

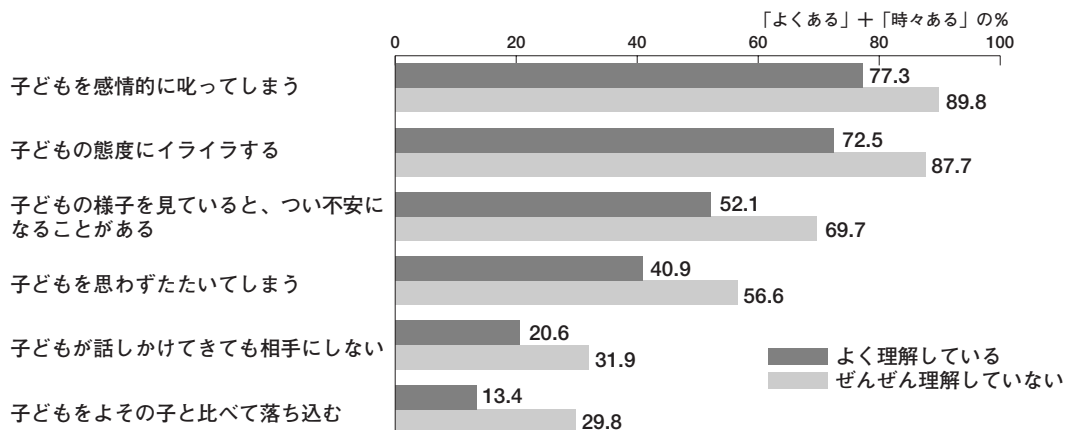
一般に、夫から理解(受容)されている妻(母親)はそうでない妻(母親)よりも、自分の子どもに対する否定的な行動や感情が少ないと予想される。結果は予想を支持するものであった。

夫が「よく理解している」と回答した母親は、夫が「ぜんぜん理解していない」と回答した母親よりも、「子どもの態度にイライラする」「子どもの様子を見ていて、つい不安になることがある」「子どもを思わずたたいてしまう」「子どもをよその子と比べて落ち込む」といった4項目において15ポイント以上低い値を示した。

■図1-3 日ごろの生活であること(母親就労状況別)



■図1-4 日ごろの生活であること(配偶者の理解度別)



注) サンプルは、配偶者の理解度についての設問で、「よく理解している」「まあまあ理解している」「あまり理解していない」「ぜんぜん理解していない」「配偶者と一緒に暮らしていない」の選択肢のうち、「よく理解している」(520人)、「ぜんぜん理解していない」(235人)と回答した人。

2 子どもと一緒にしていること

母親は家庭内で子どもとどんなことをしているのだろうか。圧倒的に多かったのは「話をする」「一日の出来事を聞く」であった。早期教育にあたるようなことをしている母親は少なく、とくに英語やパソコンにかかわることは少なかった。

◆◆家庭での知育活動は少ない

母親が家庭内で子どもとしてしていることを、早期教育にかかわることも含めてたずねてみた。12項目に対する母親の回答結果が図1-5に示されている。

「ほとんど毎日」しているのは「子どもと一緒に話をする」94.9%、「子どもに一日の出来事を聞く」82.5%である。それに続くのは、「テレビの幼児向け教育番組を見せる」57.7%、「家族みんなで食事をする」46.8%、「子どもと一緒に遊ぶ」45.2%であった。一昔前までかなり重視されてきた「子どもに家事を手伝わせる」は26.0%であった。

また、「ひらがなやカタカナの学習をする」「数や算数の学習をする」「英語のビデオ教材を見せたり、CD教材を聞かせたりする」「パソコンを使って遊んだり、学習したりする」といった積極的な意味での知育活動は10%にも達しなかった。

次に「週に3～4日」も含めてみると、過半数に達するものが6項目となる。このなかで早期教育にかかわると考えられる項目は「テレビの幼児向け教育番組を見せる」だけである。その他の早期教育にかかわる項目では、「絵を描いたり、粘土や折り紙で遊んだりする」「絵本や本の読み聞かせをする」といった2項目が5割弱である。かなりの出費

が予想される「英語のビデオ教材を見せたり、CD教材を聞かせたりする」「パソコンを使って遊んだり、学習したりする」は10%にも達しなかった。総じて、家庭での知育活動は少ないように思われる。

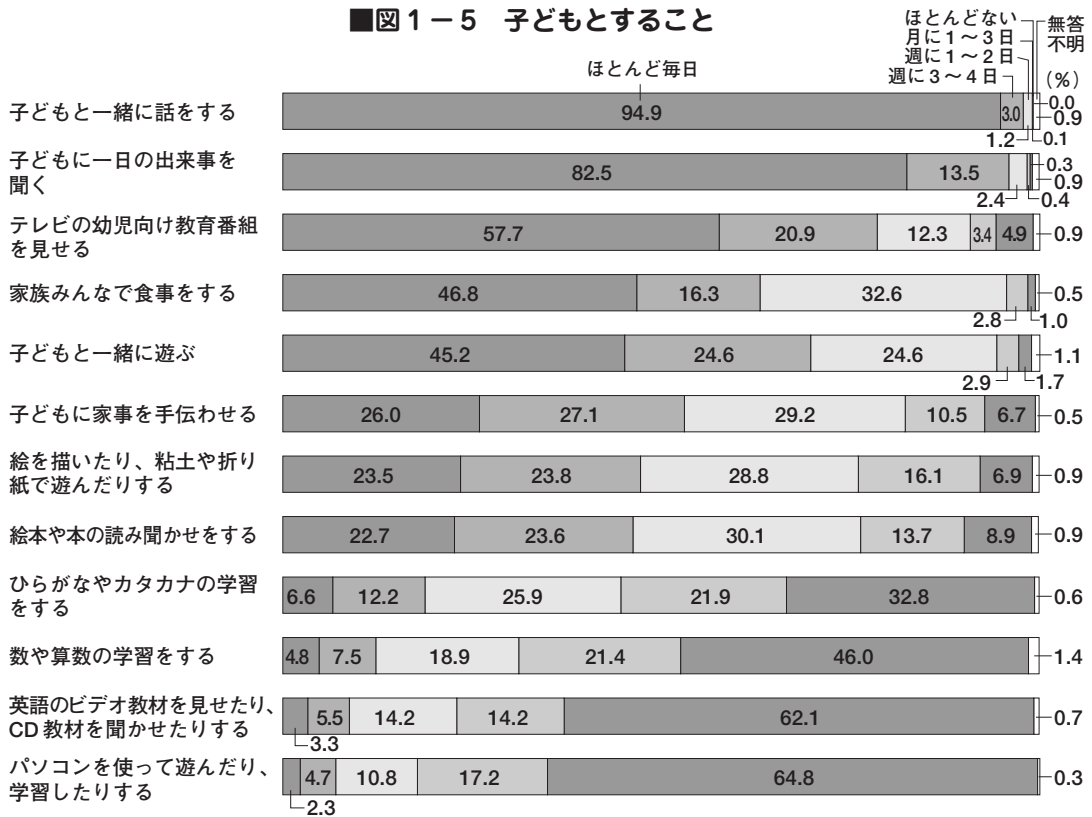
◆◆保育園児の家庭のほうが家族みんなで食事をする

図1-6には、図1-5のデータを幼稚園児の母親の回答と保育園児の母親の回答に分けて分析した結果が示されている。

両者で5ポイント以上の差異がみられる項目は5項目あった。もっとも大きな差異は「家族みんなで食事をする」の15.0ポイントで、保育園児の家庭のほうが幼稚園児の家庭よりも、家族みんなで食事をするが多かった。興味深い結果といえる。

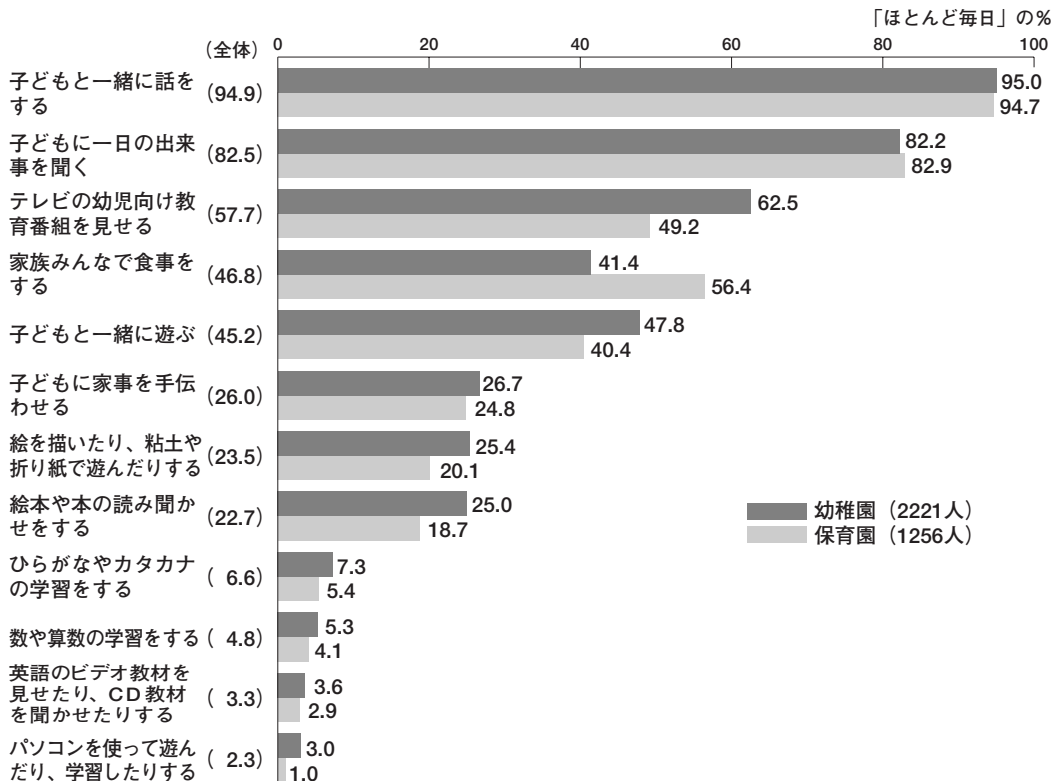
残りの4項目、具体的にいえば「テレビの幼児向け教育番組を見せる」「子どもと一緒に遊ぶ」「絵を描いたり、粘土や折り紙で遊んだりする」「絵本や本の読み聞かせをする」にはこれとは反対の結果がみられ、幼稚園児の母親のほうが高く評定していた。いずれの項目も遊びと関連した早期教育であるといえよう。幼稚園児のほうが保育園児よりも、早期教育を多く受けているようである。

■図1-5 子どもとすること



注) サンプル数は3477人。

■図1-6 子どもとすること(幼保別)



第2節

子どもの態度・様子

母親は子どもの様子や態度を比較的肯定的にみている。男女別にみると、男子は落ち着きがなく、女子はがまんづよいと認識している。出生順位別にみると、第1子は落ち着きがなく、第2子以降は運動神経がよいと考えていることがわかった。

◆◆母親は子どもの様子や態度を肯定的にみる

母親が子どもの様子や態度について、どのように感じているのかをたずねた。その結果が図1-7に示されている。子どもの肯定的な様子や態度が上から7項目、否定的な様子や態度がその下の6項目である。

全体的な傾向として、母親は自分の子どもを肯定的に(否定的ではなく)評価していることがわかる。そこで、「とてもそう」感じるという回答者の割合で詳しく検討してみると、「やさしい」「素直である」「好奇心が強い」という3項目はいずれも25%以上であり、かなり肯定的に評価していることがわかる。一方、否定的な項目では「だらしがない」「乱暴である」「友だちができてにくい」という項目が1%台であり、否定的な評価のなかでもとくにその割合が低い。

また、「とてもそう」に「まあそう」を含めて検討すると、肯定的な項目の「がまんづよい」「容姿がよい」「運動神経がよい」は45%程度にまで達するが、「頭がよい」は37.1%にとどまる。興味深いのは否定的な項目の「落ち着きがない」「わがままである」である。「とてもそう」+「まあそう」と「あまりそうでない」+「まったくそうでな

い」で二分するとほぼ同じ割合になる。否定的な項目に対して「そうである」「(とてもそう) + 「まあそう)」という回答が少ないなかで、「落ち着きがない」と「わがままである」という項目は比較的「そうである」という回答が多いといえる。

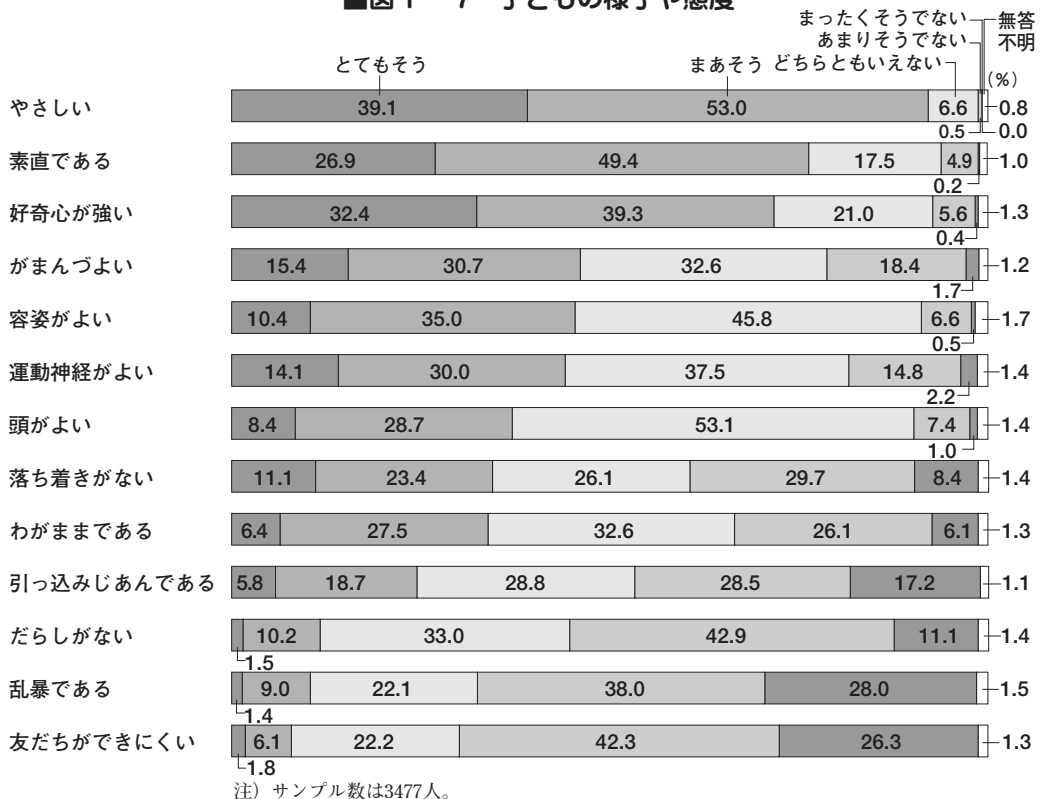
◆◆幼稚園児の母親のほうが肯定的か？

図1-8では、子どもの様子や態度をどうみるか、幼稚園児の母親と保育園児の母親に分けて分析を行った。両者の見方に5ポイント以上の差異がある場合を拾ってみよう。

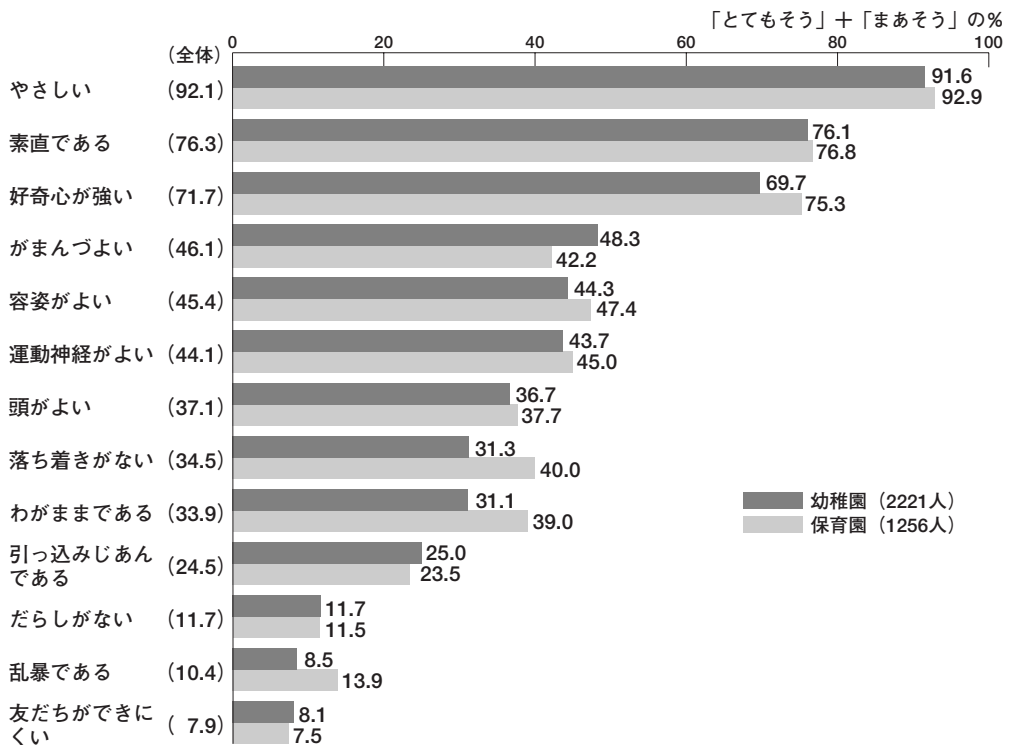
図の上から、幼稚園児の母親のほうが高く評定している項目は「がまんづよい」の1項目であり、反対に保育園児の母親のほうが高く評定している項目は「好奇心が強い」「落ち着きがない」「わがままである」「乱暴である」の4項目である。

この結果は、一見保育園児の母親のほうが子どもを否定的にみているように判断されることがどうだろうか。一般に幼児は落ち着きがないこと、さらに積極的な行動が乱暴とみられることなどを考慮すると、必ずしも保育園児の母親のほうが子どもを否定的にみているとはいえないようにも思われる。

■図1-7 子どもの様子や態度



■図1-8 子どもの様子や態度(幼保別)



◆男子は落ち着きがなく、 女子はがまんづよい

図1-9には、子どもの様子や態度を、性と出生順位の視点から分析した結果が示されている。

性別の分析で5ポイント以上の差がある項目を拾うと、図の上から順に「がまんづよい」「頭がよい」「落ち着きがない」「引っ込みじあんである」「乱暴である」の5項目である。男子は女子よりも「落ち着きがない」「乱暴である」、女子は男子よりも「がまんづよい」「頭がよい」「引っ込みじあんである」とみられがちである。

おとなは一般に、性差にもとづく決まりきった判断をする傾向(ステレオタイプ)があるといわれるが、この結果もそれに影響されている可能性が高いと思われるがどうだろうか。

出生順位別の分析で第1子と第2子以降の間に5ポイント以上の差が認められた項目を拾うと、図の上から順に「容姿がよい」「運動神経がよい」「頭がよい」「落ち着きがない」「引っ込みじあんである」の5項目である。第2子以降のほうが高いのは「運動神経がよい」である。これは私たちの日常的な知見と一致するように思われる。また、その他の項目は第1子のほうが高いが、これもいわゆる長子における一般的な傾向ではないだろうか。

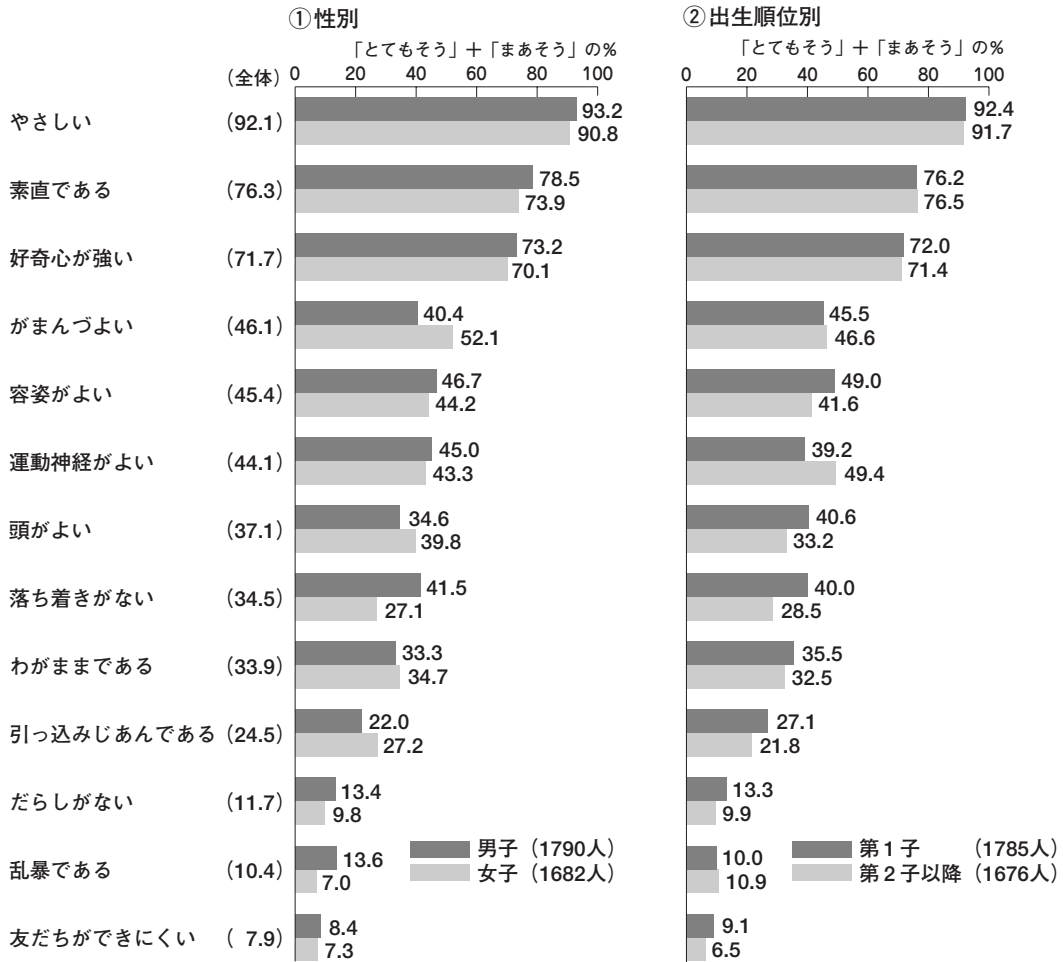
◆子どもの見方が子どもへの 働きかけに影響する

表1-1には、「子どもの様子や態度」の4つの問いと、すでに本章の第1節2項で分析した「家庭で子どもとすること」の4つの問いとをクロスして分析した結果が示されている。数値の見方は表の注を参照していただきたい。

値の差が大きいもの(8ポイント以上の差があるもの)をみると、「好奇心が強い」場合の「子どもと一緒に遊ぶ」、「容姿がよい」場合の「子どもと一緒に遊ぶ」、「頭がよい」場合の「絵本や本の読み聞かせをする」の3つである。これらは、母親が自分の子どもを「好奇心が強い」「容姿がよい」とみている場合には「子どもと一緒に遊ぶ」ことが多いこと、同様に、「頭がよい」とみている場合には「絵本や本の読み聞かせをする」ことが多いことを意味している。因果関係の方向は特定できないが、子どもの様子や態度を母親がどうみるかによって、母親が家庭で子どもとする行動に違いがでてくる可能性が示されたといえる。

ちなみに、「運動神経がよい」場合の「テレビの幼児向け教育番組を見せる」に-5.7ポイントの差異がみられるが、これは、母親が自分の子どもを「運動神経がよい」とみている場合にはテレビの幼児向けの教育番組を見せないことが多いことを意味している。自分の子どもを「運動神経がよい」とみている母親は、運動することを奨励しているのだろうか。

■図1-9 子どもの様子や態度(性別、出生順位別)



■表1-1 子どもの様子や態度

(%)

	好奇心が強い			容姿がよい			運動神経がよい			頭がよい		
	高群	低群	差	高群	低群	差	高群	低群	差	高群	低群	差
テレビの幼児向け教育番組を見せる	58.0	53.6	4.4	58.9	57.9	1.0	56.5	62.2	-5.7	58.3	59.0	-0.7
子どもと一緒に遊ぶ	47.1	39.1	8.0	48.7	38.1	10.6	46.1	44.6	1.5	46.8	43.0	3.8
子どもに家事を手伝わせる	27.1	22.2	4.9	27.5	22.3	5.2	27.4	25.3	2.1	29.0	22.2	6.8
絵本や本の読み聞かせをする	24.3	18.4	5.9	25.8	20.6	5.2	23.1	22.8	0.3	29.1	18.8	10.3

注) 「子どもの様子や態度」の項目(例えば、好奇心が強い)で、「とてもそう」と「まあそう」に回答した人を高群、「あまりそうでない」と「まったくそうでない」に回答した人を低群として、その人たちのなかで「家庭で子どもとすること」の項目(例えば、テレビの幼児向け教育番組を見せる)に対して「ほとんど毎日」と回答した人の割合(%)と両群の差(%)を示した。